



熊本県 株式会社 シルバーバック
「復興応援プロジェクト『希望』」事業



株式会社 シルバーバック
代表取締役社長
岩崎耕二さん

東日本大震災の復興を支援する
ボランティアや募金活動

2泊3日で南三陸町へボランティア活動に

「他人ごとではない。何かできないか…。熊本県宇城市に本社を置き、県内に9ホールを展開する株式会社シルバーバックの岩崎耕二社長は、東日本大震災の惨状を伝えるニュース映像に、強く心が揺さぶられたという。物資を送るのは難しいことがわかり、まずは日本赤十字社を通じて、義援金を送ることにした。その資金は、大震災直後から始めた大胆な店頭・店内照明の節電対策によって捻出したものである。さらに、少しでも被災地の人々の力になりたいという考えのもと、社内会議で「プロジェクト希望～「熊本から希望の虹を架けよう！」という復興応援のためのボランティアプロジェクトを提案、各ホール店長をはじめ、若手幹部社員で構成されるジュニアボードメンバーを中心に、そのプロジェクトを進めていくことになった。

その具体的な取り組みのひとつが、自社スタッフを被災地に派遣して、ボランティア活動を行うことである。プロジェクトチームでさまざまな調査・調整を行ったところ、宮城県北東部の南三陸町災害ボランティアセンターが派



ホームページにもアップされた「希望」プロジェクトのポスター



漁業支援ボランティアの一環、カキの殻むき



瓦礫を片づけたり、整地作業に取り組むホールスタッフ

遣を受け入れてくれることになったため、2泊3日コースに申し込み、現地で瓦礫撤去、養殖ガキの殻ムキやからみつけた網をほどく漁業支援、片付けや整地を行う農業支援などに取り組んだ。

このボランティア活動は、原則として1回5名のチームで構成され、これまですでに10回以上実施されているが、プロジェクト第Ⅲ期となった昨年度(2013年4月17日～2014年4月16日)は、6・7・9・10・11月の計5回実施した。また、6月の活動には、これまで宿泊場所の関係で参加しにくかった女性だけのメンバーで参加した。岩崎社長や経営企画社長室室長の河地ゆかりさんによれば、現地ボランティアに参加した社員からは、「勉強になった」「人生観が変わった」という声が多く寄せられているという。

街頭募金やチャリティバザーに取り組む

このほかにも「希望プロジェクト」としては、熊本市内下通りでの街頭募金活動がある。昨年は計4回実施したが、毎回、20名ほどの社員がボランティアで参加し、約1時間30分、通行者からの募金を募っている。午前中に実施し、当日休みのスタッフと遅番出勤前に参加するスタッフで構成され、参加意識が高いという。さらに、シルバーバックでは、15年ほど前から日本テレビ系列が行う「24時間テレビ 愛は地球を救う」のチャリティ募金に際して、本社前に特設会場を設営して協力しているが、そこで東北から仕入れた物産などを販売する独自のチャリティバザーも行っている。

こうした街頭募金やチャリティバザーで集まったお金



24時間テレビのチャリティ募金に協力した本社前特設会場の運営メンバー

と、ホール内に設置した募金箱へのお客様からの真心募金、会社・社員からの募金を合わせた義援金は、日本赤十字社を通じて東日本大震災の被災地に贈られているが、2014年5月15日時点での総額は1766万6620円となっている。「現在も募金活動を継続しているのは、東日本大震災の記憶を風化させないためという目的もあります」と、岩崎社長は語る。

以上が「希望プロジェクト」の概要だが、このほかにもシルバーバックでは「地域との共生」を掲げ、地域の祭礼行事、河川や公園の清掃活動などに積極的に参加している。毎月、最低でも1回はこうした活動に参加しており、「自分たちが地域にとって価値のあるものでなければ、企業として存続していくことはできない」と、岩崎社長はその動機を語る。全社を挙げてボランティア活動に取り組むという方針が社員にも浸透し、現在では自発的に参加する従業員も増えている。地域貢献、社会貢献はシルバーバックの企業文化として根つき始め、今後の活動に注目の企業である。



人通りの多い繁華街(下通り)での街頭募金活動

